


















■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)グランフォーレ古船場町	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.8 /5	  	がんばろう 
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5	   	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5	 	がんばろう 
4 高齢社会への対応	1.0 /5		がんばろう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 2.8	
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮	
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 2.9	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
<自由記述>		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 2.6
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.6	
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮	
LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.2	LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述>LED照明を使用しています。		<自由記述>節湯水栓、節水型便器を使用しています。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.3	
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮	
Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 1
<自由記述>		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2
4 高齢社会への対応		スコア平均 1.0	
バリアフリーに関する配慮		主な指標	
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	建物の外皮性能(BPI評価)	
<自由記述>		非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級	
		等級3	
		建物の一次エネルギー消費量(BEI評価)	
		非住宅:BEI値、住宅: -	
		0.62	
		外構緑化指数	
		4.7 %	
		建物緑化指数	
		0 %	

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)グランフォーレ古船場町 新	階数	地上15階
建設地	福岡県北九州市小倉北区古船場町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	196 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2019年2月27日
敷地面積	598 m ²	作成者	中尾 俊平
建築面積	337 m ²	確認日	2019年3月22日
延床面積	3,903 m ²	確認者	石川 拓哉



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境効率 BEE</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 2.8</p> <p>音環境 2.0 熱環境 3.1 光・視環境 3.1 空気質環境 3.4</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.1</p> <p>機能性 3.6 耐用性 2.8 対応性 2.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 1.5</p> <p>生物環境 1.0 まちなみ 2.0 地域性 1.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 2.8</p> <p>建物外皮の 3.0 自然エネ 2.0 設備システ 2.9 効率的 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.0</p> <p>水資源 3.4 非再生材料の 2.9 汚染物質 3.0</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 2.6</p> <p>地球温暖化 3.2 地域環境 2.5 周辺環境 2.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>空気住環境、機能的な空間作り、敷地内環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。</p>	<p>その他</p> <p>特になし。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>外壁は断熱材を吹付けた防露壁とした。またシックハウス対策はF☆☆☆☆を採用した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>共用廊下、住戸内床は段差をなくし、バリアフリーに対処した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺に配慮した建物高さ、配置を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>共用部・住戸内とも主要な照明は、LED照明を採用した。また給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに考慮した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節湯水栓等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地外の歩道に、緑地を新設した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)グランフォーレ古船場町 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.5
Q1 室内環境			0.40	-	-	2.8
1 音環境		3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	3.4	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	LL-45	-	-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	LH-50	-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	2.0	1.00	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		2.3	0.25	3.3	1.00	3.1
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.35	
1 昼光率	4.9%~8.6% 平均6.6%	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.35	
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.29	
4 空気質環境		3.0	0.25	3.6	1.00	3.4
4.1 発生源対策		3.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を使用	3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		1.4	0.40	4.4	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	100Mbitクラスのブロードバンド利用可能	-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		1.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観	居室の天井高2.5m	-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:硬質塩化ビニール管(B) 排水:耐火二層管(B) E:不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		2.8	0.30	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり		-	-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり	-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	2.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	1.5
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 1.01	2.9	0.50	-	2.9
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節湯水栓、節水型便器	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		居室床下地にパーティクルボードを使用	3.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	
1	消火剤		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮		標準計算による	3.2	0.33	-	3.2
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	
3 周辺環境への配慮			2.1	0.33	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	
2	振動		-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		1.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	